

## こんな悲しいことが

写真は「障がいのある子の高校集会 2016」の報告資料。名古屋市立中央高等学校に入学し、じつに楽しそうに通学する久野藍里さん。

この報告を聞き、藍里さんに話しかけたら、高校生活が本当に楽しいと語ってくれた。中央高校には昔よく訪ねたことがあり、どのように通学しているかに関心があった。藍里さんの母、久野美菜子さんの報告資料から。

2年越しの念願だった中央高校への入学。そして新たな高校生活。

「お母さん、今まで生きてきて私は今の高校生活が一番楽しいよ！何より先生方が私のことを否定しないことが嬉しいの！友達も増えて楽しい。友達の存在ってやっぱり大事だよ。お母さん！本当の友達って良いものだなー。体育の授業では号令係をやらせてもらっているよ。準備運動のかけ声も担当しているの。はじめは授業の中で自分に役割を与えられたことが嬉しすぎて、皆にかけ声をかけながら、何だか笑ってしまったの。先生は私にできることを探して授業に参加させてくれるし、ほんとに学校超～楽しい。」

でも、こんな悲しいことがあった。『AJU はるよ こい』11月15日号の「高校生活を送る中で」から。

先日、藍里が通学に利用しているバスの中で、こんな出来事がありました。その日の朝の通学には、母親の私も用事があったために藍里と一緒にバスに乗り込みました。乗務員さんが車椅子の固定をするのを、私も手早く手伝い「さぁ出発だ！」と思った瞬間、一人の高齢男性が私に向かってこう言い放ちました。「皆に迷惑かけているのだから、すみませんぐらい、言えよ」私はとっさの出来事に一瞬戸惑い黙っていると、しつこく何度も同じ言葉を浴びせてきました。正直、面と向かって世間の人から心ない言葉を浴びせられたのは、この時が初めてだったのでショックでした。

そして藍里の怖がっている様子を見たら、言いようのない辛さがこみ上げてくると同時に、相模原の事件のことが頭をよぎりました。誰もがあたりまえに過ごしている日常の中に、相模原の事件の土壌が潜んでいるのだと思い知らされたような気持ちになり、周囲の視線が少し怖くなりました。

このレポートを読み、高齢男性の言葉に驚き腹が立った。障がいをもつ藍里さんとお母さんに対して、あんな言葉を投げつけるとは。お母さんはすぐ交通局に連絡するなど、それなりの「対応」をされた。超～楽しい高校生活を送る藍里さんの気持ちを考えると、高齢者の一人として黙っておれない。「わがこと」としても考え、行動していきたい。

(2016年11月21日)

